

星稜サ・エ・ラ

稲置学園 INAOKIGAKUEN NEWS LETTER

SEIRYO ÇÀ ET LÀ

No.3

2006



CONTENTS

Special Issue

「わが誇り月ヶ瀬、
月ヶ瀬から金沢へ
先代理事長 稲置繁男先生」

田中喜隆氏

市民に愛される
「星稜の森」づくりを

星稜 hunt up

星稜アレコレ

金沢星稜大学
星稜女子短期大学
星稜中学・高等学校
星稜幼稚園・星稜泉野幼稚園

星稜Information



学校法人 稲置学園

わが誇り月ヶ瀬、 月ヶ瀬から金沢へ 先代 稲置繁男先生 理事長

先代理事長稲置繁男は奈良県月ヶ瀬の生まれ。その美しい梅の里に功労を尽くしてきた
田中喜隆氏が、先代理事長、そして月ヶ瀬について語ります。

田中喜隆氏

たなか・よしとか／月ヶ瀬村（現・奈良市月ヶ瀬）・前助役、元教育長



長きにわたった 先代理事長との親交

先代の稲置繁男理事長は、わが村月ヶ瀬の出身です。理事長は文化と学問の誉れ高い金沢において、幾多の苦難を乗り越え稲置学園を築きました。

学園の理念である「誠実にして社会に役立つ人間の育成」は、先代理事長が月ヶ瀬で培った人間性から生まれたものではないかと思えます。理事長は、わが月ヶ瀬が誇る偉大な人物なのです。先代の稲置繁男理事長とご縁のはじまりは、私が教育委員会に籍を置いていた頃に遡ります。ご尊兄の勝繁さんが教育長を務められていました。そうして私がはじめて星稜にうかがったのは昭和38年ごろのことです。59年からは、15年間の教育長時代、6年間の助役時代、計21年間に十数回、稲置学園をお訪ねしました。理事長は方言

を乗り越え稲置学園を築きました。



で気さくに話され、飾り気のない方でした。人一倍、信念が強く、言うべきことはずばり言われる方でもありました。お会いするたび、「稲置繁男」という人間の深さに感じ入りました。稲置美弥子現理事長となられてからも平成9年12月稲置繁男先生の銅像除幕式

には、教育長として村長と一緒に出席させていただきました。学園を創設し、発展させた先生の偉業に改めて敬意を抱いたことを思い出します。最近では4年前にお伺いし、かつて蓮田が広がっていたところも家屋が立ち並び、その中心にそびえる稲置学園の発展に目をみはりました。

梅林で名高く、 高齢者が住みよい村

先代理事長の出生地であり、青年期をすごされた月ヶ瀬は美しい梅林や豊かな自然、数多くの文化財に恵まれた村です。梅の名所として知られ、大正11年3月8日、金沢の兼六園、奈良の奈良公園とともに、国の名勝に指定されました。月ヶ瀬の梅の木は、その昔烏梅（うばい・紅花染の媒染剤で京都の染店で需要）を製造するため植えられたもので、18世紀後半には村内に梅林が広がっていました。明和9年（1772）神沢貞幹の随筆『翁草』や、その後、頼山陽、富岡鉄斎、斎藤拙堂らによって、月ヶ瀬の梅林は広く世に知られるところとなったのです。

月ヶ瀬はいま、長寿の村であり、元気なお年寄りが大勢います。2、3年前の統計では、全人口のうち65歳以上は、全国平均の18%に対し、村は32%でした。高齢者たちが澁利としているのは、農作業など働く場があり、隣近所とのお付き合いが温かく、ゲートボールや



グラウンドゴルフなどをのびのびと楽しむ環境があるからでしょう。坂が多く、足腰が鍛えられることや、空気がきれいなことも、健康と体力づくりに役立っているようです。また、月ヶ瀬村は平成17年4月に奈良市に合併しました。

先代理事長の 故郷への思慕は篤く

先代理事長はご多忙なお身体でしたが、月ヶ瀬で二度、講演をしていただきました。一度目は昭和55年、体育館を会場に、村の若者へのお話をされました。二度目は平成3年、文化センターで成人を対象とするお話を拝聴しました。

昭和63年、村の文化センターが竣工した折りは、理事長はセンターの梅の

緞帳をご覧に来館されました。稲置記念館のホールを飾る緞帳の参考にするためでした。こうして平成元年に完成した記念館の緞帳は、梅と橋がモチーフになっています。稲置学園の学園章は梅、稲置学園六十周年を記念して発行された『稲置学園の六十年』の表紙は奈良晒。金沢に暮らしながらも、故郷への愛着は深かったのでしょうか。また、月ヶ瀬福祉センターには稲置美弥子現理事長にもご縁があり本館ホールに記念の時計を寄贈していただいております。

地域との交流による 月ヶ瀬の教育

先代理事長にとって、梅林は故郷月ヶ瀬の象徴であったように思います。

わが誇り、月ヶ瀬
月ヶ瀬から金沢へ
先代 稲置繁男先生
理事長



村の梅林は二万本、われわれにとってもそれは月ヶ瀬の礎のようなものです。月ヶ瀬では梅を子供の教育に活かしています。

村では、二十年来、保育園児から中学生まで「梅の実体験」を行っています。子どもらが年に百六十kgの梅を採り、梅干を作って、これを学校給食で食べるというものです。こうした体験が、子どもと地域のつながりを強め豊かな心を育むものになっていると思います。

昨今、教育社会では学力と知識が優先され、人間性や社会性がおろそかにされています。子どもは耐える力に乏しく、心の成長も遅れています。私は教育長時代、特にふるさと月ヶ瀬に愛着をもち、子どもたちの耐える力を育てようと、「つきがせ運動」というものを提唱しました。

「つ」は強いからだを育てよう、
「き」はきれいな村を作ろう、

「が」はがまん強い心を養おう、
「せ」は青少年の未来をひらこう、
です。子どもの教育は学校だけでなく、家庭や地域とともに行うものです。子どもと地域、学校と地域のつながりは大切にしなければなりません。

梅の姿に学び 青少年の心の育成に邁進

私は、小中学校の卒業式やスポーツ大会など機会があるたび、このように呼びかけています。

「多くの先人が苦難を克服して築き上げた名勝月ヶ瀬を誇りとし、この恵まれた豊かな自然環境や文化風土をいつまでも大切にしたい。とくに、私は名勝月ヶ瀬の梅の姿に学び、その精神を大切にしたい。梅は、長い寒さと厳しい風雪に耐え、春の訪れを待って美しい香り高い花を開く。その尊い姿に、私たち人間は大いに学ばなくてはならないと思います。」

いま、子どもも若者も、厳しさに耐える力が弱くなっています。これからの子どもの健やかな成長のためには、耐える力、がまん強い心を育成すること、豊かな心を育て、人間性を教育すること、故郷に誇りを持ち、日本人としての自信を持つこと、働くことの大切さを感じる心や、物事、とくに食べものに感謝する心を育てること、こうしたことが重要であり、親、学校、地域の使命であると思っています」。

「誠実にして社会に役立つ人間」を建学の精神として、信念をもって学園を育てられました。そして、稲置学園からは多くの志ある若者たちが巣立っていきました。私たち奈良月ヶ瀬との深いつながりのある稲置学園がますます発展するよう期待し見守りたいと思います。



月ヶ瀬を訪ねて

稲置 美弥子「稲置学園理事長」

残暑の9月初め、学園広報誌『星稜サ・エ・ラ』で企画した、先代理事長のふるさと取材に同行し、月ヶ瀬を訪れました。久しぶりの訪問です。ほとんどが冠婚葬祭で、あわただしく行き来するだけですが、今回は梅の香りが漂い、深緑の茶畑が広がるふるさとの良さを、改めてゆっくりとかみしめてきました。

をお聞きし、この緞帳を拝見させていただきました。月ヶ瀬の梅のイメージは、学園の記念館に今も生きています。

創立者稲置繁男理事長のふるさとは、私のふるさともあります。恵まれた自然と、人情厚い人たちが住むこの地は、訪れる毎に心を豊かにさせてくれます。

それに増して、平成17年4月の奈良市への市町村合併まで月ヶ瀬村助役をされた田中喜隆さんにご案内いただき、また企画へのご協力をいただきました。田中さんは村の教育長など、長年にわたり教育畑を歩んでこられた方で、稲置学園へのご協力やご支援には格別のものがあります。今回は、「先代理事長が月ヶ瀬文化センターのホール

月ヶ瀬に立ち、月ヶ瀬の人と触れながら、誠実な人間の育成、社会に役立つ人間の育成という本学園の建学の精神を、清々しく思い起こしていました。

の緞帳を稲置学園記念館の緞帳の柄の参考にするため、わざわざ現地までこられた」というお話



学術の森「金沢星稜大学・短期大学」を読んで

市民に愛される 「星稜の森」づくりを

平成18年7月4日から8月17日まで、北國新聞の「学術の森」シリーズで、稲置学園が登場しました。そこで、県内のある大学関係者に、感想を述べていただきました。

昔から「学都金沢」といわれ、金沢は大学・短大・高専など、学校の多いところだ。山側環状道路で結ばれたライン上に七つの大学・短大がずらりとならんでいる。

そんな折、北國新聞に「学術の森」シリーズがあったから、それほど熱心な読者というわけではなかったが、稲置学園担当者からの依頼もありウインドショッピングのつもりで各大学を覗かせていただいた。

総合大学の金沢大学、先端科学技術大学院大学、それに、単科大学の医科大学、美術工芸大学、農業大学、工業大学、看護大学などは、名称に

も教育や研究目的がはっきり表れてくるから、中で何をしているのかだいたいの見当はつくし、そこに登場する教授の紹介を通して、大学の森の大きさや構成、深さ、その中の巨木の個性や雰囲気も分かるとういうもの。だけど、そうでない一般的な名称の大学はどんな森になっているのだろうというのが私の目的。

さて「金沢星稜大学・短期大学」は計14回、32人の役員、教授が登場する森の紹介であった。初回は稲置美弥子理事長、建学の精神は「誠実にして社会に役立つ人間の育成」。高等学校からはじめたのを、幼稚園から大学までの総合学園として星稜に統一したとのこと。なるほど「星稜の森」に入り、四年間森の中の道を歩けば、森の出口では「誠実にして社会に役立つ人間」になっているというイメージ。

ところで、この文を書いていた九月十三日、左手首の骨折から四ヵ月ぶりにメジャー復帰した松井秀喜選手はいきなり四打席連続安打。すごい。スーパースターなのに、誠実、謙虚で偉ぶらないし、みんなに好かれている。高校時代に松井を指導した山下特任教授もおられることだし、「星稜の森」で暮らしたら、そういう人間になれるかもしれないというのはすごい魅力。

国公立と違って、私学のよいところ

ろは、そのような「建学の精神」の巨樹を森の中心に据えて、教員も学生もそれを見ながら森の中で暮らすことなのだと思う。それができているだろうか。

次は早瀬学長の登場。「建学の精神」を踏まえた手際のよい大学運営が「中退者ゼロ作戦」「女子学生倍増計画」「観光立県への人材供給」「国際感覚の定着」「地域に役立つ人間」などのスローガンとして現れている。国際派のエコノミストの学長さんなのだろう。「経済とスポーツと子ども」の要素を融合させた新たな伝統作り（花岡教学担当理事）も新しい「星稜の森」づくり戦略として目を引く。理系のご出身ということだから、教員のやり方もこれまで以上にきちんと整備していただけるのではないだろうか。

というのは、日本の一般的な文系大学は、学生の主体性や自主性に期待するあまり、放任傾向が強かったように思う。私の偏見かもしれない



が、金沢経済大学時代のイメージはその例に漏れない。六年ほど前のある秋の日曜日、男子のスポーツ大会を見物に行ったことがある。金沢経済大学チームは強かったのだが、どうも見ていてふざけ半分で、真剣さが足りない。相手チームはいかにも素人っぽい弱小チームだが、一生懸命やっている真面目さが伝わってきて、観客としてはそちらを応援したくなる。そのうち、気がついた。金沢経済大学チームは顧問の先生がおられなかった。一方、相手チームには無縁の先生なのだろうが、とにかくベンチに入って学生さんたちを励ましている。二つの大学の学生に対する教員の姿勢の違いみたいなものが伺われて興味深かった。はたして数年後、相手方の大学は就職など学生の面倒見がよいことで人気ナンバーワンになった。

学生たちの教育について、先生たちはどの程度意識しているのだろうか、具体的に表われている記事を見ると、「きょうの授業も真剣勝負やぞ」と熱く語りかける岡部教授、学生たちと「現場主義での社会活動」に取り組む池田教授、「デジコン市の海外実習」にとりくむ小坂教授などがあり、記事の中からも学生の面倒見がよさそうに思われた。

さて、建学の理念のもう一つのキ

ーワードが「地域に役立つ」。

「学生クリーンビーチ石川」や「障害者乗馬」のボランティア（池田教授）、「過疎の経済」研究（鍵主教授）、「副都心ニュー金沢」（小西教授）、「地域課題研究」研究（澤教授）、「地域貢献」（稲置短大副学長）などがこれに当たる。ほかにも地域に役立つ教育や研究をしている教員はいるのだろうか、記事の上からはこれだけ。そう多いわけではないというのが率直な印象。

私立大学の特色はよきにつけ、悪しきにつけ、建学の理念を多様な学問・教育の中心に縦軸として位置づけられるかどうかを表れてくる。各教員が自分の研究や教育をその中心軸に添わせながら展開し、それが求められると思うのだが、その意識はまだ浸透しきっていないのかもしれない。

四年前のことである。ある文化イベントがあり、市内のいくつかの大学の学生さんたち二十人ほどにボランティアをお願いした。この時、星稜大学からは五、六人の学生さんが先生が引率されておられた。

「おつ、変わったな」と思ったのは大学名だけではなかった。この時、星稜大学の先生と学生さんたちは率先して裏方に回り、実に明るく忍耐強くイベントを支えてくれたのである。「いい学生さんたちじゃないか」と、スタッフ一同星稜大学を見直し

ていた。今でも「ジャンパネット」や「グリーンビーチ石川」などで、星稜大学の学生さんたちが中心的に頑張ってくれているというのは主催関係者の間ではほぼ定着している話である。

北陸最大の地域的課題である、過疎の問題にも向き合って欲しい。

「地域に役立つ」というからには、若者の姿を見かけなくなった過疎の地域に、星稜の若者たちが定期的・恒常的に姿をみせて、地道な活動を展開してくれるならば、地域の人々に大いに喜ばれることだろう。「過疎の経済」研究(鍵主教授)、「副都心ニュー金沢」(小西教授)、「地域課題研究」(澤教授)、「地域貢献」(稲置短大副学長)などに期待したいところ。

さて、星稜大学の研究・教育をかいま見るに、そのような人材養成理念の輪郭がくっきりと見えだしたことはすばらしいこと。加えて現在、「経済とスポーツと子どもの要素を融合させた新たな伝統作り」(花岡教育学担当理事)の一環として、「人間科学部」という新しい学部構想が検討されていると聞く。「星稜の森」の多様化がうまくいけば、その大きさと深さが増し、森の魅力がいつそう発揮されるのではないだろうか。そうなれば、「ウィーの森」のように市民に愛される森になるかもしれない。ぜひそうなって欲しいものである。

星稜 hunt up

Vol.1

残暑が残る初秋の一日、急な坂道の途中にある 星稜女子短期大学を訪ねた。



星稜女子短期大学(以下、「星短」)は、来年の平成19年度から、県内唯一女子のみの短大となる。千原恭一学長は、「女子に共通した教育、女子だからこそ伸ばせる教育を行うことができるチャンス。そこにこだわりたい理由は、女子が社会に出てどんどん活躍し、その役割が広がっている」からだと力説する。

さつそく校舎に入り、学生がもつとも集まる星短の食堂に向かう。昼を過ぎているので、食堂の従業員の方と話ができた。

「かつての制服があったところと違い、今は自由な服装だから外面の違いは感じることはありませんが、『おばちゃん!』と人懐っこく話しかけてくるのは、昔も今も同じだね」と、20年近く食堂で学生を見守り続けている斉藤外志子さんは、優しい笑顔で話す。

現在、星短の食堂には20種ほどのメニューがある。女子学生向けに、丼物に小さなデザートが付いたもの、ご飯の量が少なめの定食。オムライスやざるラーメンには長蛇の列ができるほど人気がある。斉藤さんたちは、学生たちにおいしく食べていただきたいために、できるだけ注文が入ってから作り始めることにしている。学生への心遣いがうれしい。調理場は、2人しかいないため、時間がかかることもあるが、学生は「待つてもいいから作って!」と言う。

食堂の「おばちゃん」とは、食事だけではなく、親や学校に話せない悩みを相談され、聞いたり話したりすることがある。次の日、「昨日はごめんね。元気になったから」と笑顔を見るとほっとする。就職が決まったことを報告し、「あと何回ここで定食が食べられるかな」と名残惜しんでくれる学生。学生と斉藤さんたちの「交流」は、ほのぼのとした学園生活を感じさせてくれる。

事務局に伺う。今年から始めた七尾市南大畚地区の地域おこしの写真を見せていただいた。七尾市の田んぼでの田植えの写真。ほとんどの学生は初めてだろう。ご飯を食べても、その「米のなる木」稲を触ったこともないはず。米のひと粒ひと粒を大切にしたいという学生もいた。これから、家庭を持ち母となったとき、



この経験は必ず活きると思った。女子だけが経験すればいいとは言わないが、千原学長からお聞きした女子教育のひとつを感じることができた。本年度から始まった「人間キャリア教育」のSeminar CommunityやOpen Eventの取り組み、そして「星短Seminar Communityニュース」の発行など、星短の新しい動きを感じる。

9月末から後期の授業が始まった。この夏、星短校舎は耐震補強工事を行った。若干リニューアルした星短で、学生にとって楽しく有意義な学園生活となるよう願って―。

アコレ 星稜

★短 Seminar Community 本格始動 —サミナー「ミニニティー」—

Seminar Communityは「人間・キャリア教育」の一環として、学生が地域に向き様々な体験を通じて人間性を養い、学生の自己発見と人生観や職業観を育てる教育プログラム。1年生全員が4つのグループ（コア）に分かれ、本格的な活動を行っています。

【ビジネスグループ（Aコア）】
「売上・利益向上、協働連携による地域の活性化」をテーマとし、（株）ヤマト醤油味噌を見学して食育、商品開発の考え方、原価計算と利益について学びました。また、食品衛生の基礎知識の習得や、5月に七尾市南大舌で作

付けし収穫した有機農法のジャガイモを使ったアイデアコロッケの開発に取り組んでいます。

【文化・語学グループ（Bコア）】
「七尾市南大舌地区及び七尾地域の魅力の発掘と、その国内外へのアピール」をテーマに、県内の新旧名所の見学のほか、伝統芸能である能の鑑賞や県立能楽堂での加賀宝生の体験を通して芸術・文化について学びました。

今後は、南大舌地区を英語で紹介するPR誌の作成や石川の食文化についても学ぶ予定です。

【情報グループ（Cコア）】
「地域振興に係る情報収集、解析及び発信技術の習得」をテーマに、GPSを使って七尾市内の危険箇所や観光名所の位置計測を行います。蓄積



ビジネスグループ（Aコア）



文化・語学グループ（Bコア）

したデータを地理情報として電子国土に掲載し、地域の安全マップや観光マップづくりを目指し活動しています。

※『電子国土』とは、国土地理院がインターネットにより提供している地図情報提供サービスで、国土に関する様々な情報を統合して、幅広い分野で活用できる機能を備えた電子地図です。

また、沢野ゼミナールでも『電子国土』を活用し七尾市の美しい景観を写真と地理情報で紹介する『七尾百景』（<http://nanao.seiyotab.jp/nanao100/>）というサイトを既に公開しており、国土地理院の電子国土ポータルサイトで紹介されています。

【スポーツマネジメントグループ（Dコア）】

「スポーツ体験やスポーツイベントの企画・運営を通して、スポーツ指導者としての基礎的素養を高め、スポーツクラブの経営・実務能力を養成する」ことを目標とし、活動しています。陸上記録員資格の取得のほか、七尾湾でのスキューバダイビングの体験や地元のマリンスポーツ行事の参加などさまざまな体験をし、今後は七尾市でのスポーツファーム開設にも取り組みます。



スポーツマネジメントグループ（Dコア）



情報グループ（Cコア）

★ 夏季集中講義 野外スポーツ 演習

自然の中で
濃厚な生活を過ごす

夏季集中講義の「野外スポーツ演習a」を8月28日(月)～29日(火)、穴水町「四季の丘」を中心に行い、27名の学生が参加しました。農業体験ではブロッコリー苗付作業やミニトマト収穫を行い、その他、穴水湾ではシーカヤックも体験しました。

天候にも恵まれ、仲間と協力しながら日頃大学内では体験できない自然を感じる事ができました。

冬季は、長野県白馬においてスキー・スノーボードの実習を行う予定です。



★ 老舗旅館で 観光実務

ビジネスコミュニケーション学科国際・観光コースを専攻する学生を対象にした集中講義「観光実務演習」で、2年次の蔡紅蘭(さい こうらん)さんと孫雪潔(そん せつけつ)さんは山中温泉老舗旅館「白鷺湯たわらや」にて、8月24日(木)～28日(月)の5日間住み込みで就業体験をしました。

学生たちは、全国的にも観光地として名高い山中温泉の老舗旅館で実習することで、接客やおもてなしの心など、観光業界のプロから多くを学びました。

その他、金沢全日空ホテルでも実習を行いました。



★ 大自然の中で実習体験

Pコースの生徒全員が、大自然の中でのいろいろな体験を通して、仲間との絆を深めることを目的に8月30日(水)～31日(木)に学年別で実習を行いました。

3年生は鳳珠郡能登町で「海浜実習」を行い、スノーケリングや海での危険回避、安全性、心肺蘇生法について学びました。

2年生は、白山登山実習で、疲れにくい登り方や下り方から、服装や荷物のつめ方・背

負い方などを勉強し、全員山頂で「采光を仰ぎ見る」ことができました。



1年生は、国立能登青少年交流の家で、いかだ航海・サイクリング・野外炊飯などを体験しました。



★ 高 関西難関国立大学キャンパス見学

毎年進学希望者の多い関西地区の大学見学を8月3日(木)～4日(金)の日程で実施し、2年生69名が参加しました。

歴史と伝統ある「京都大学・大阪大学・神戸大学」のキャンパスを訪ね、その雰囲気と環境を実際に感じることで、将来の進路に対する意識が更に向上しました。

また、大学見学だけでなく、まらず、伝統的な関西の文化にも触れる機会となりました。

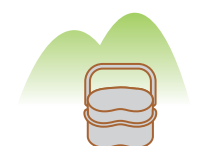


★ 中 宿泊研修

9月4日(月)～5日(火)国立能登青少年交流の家において、宿泊研修を実施しました。この研修は、野外活動や宿泊研修などのさまざまな体験活動を通じて、自然に親しみ豊かな心を育てることや仲間と協力しながら目標に向かって努力することを目的とします。

活動は、1日目はカヌー、アーチェリー、サイクリング、ディスクゴルフ、七宝焼きなどの希望プログラム別の活

動、2日目は1年生から3年生を縦割りグループとし、マイスプーン、マイフオーク、サンドグラス作りに取り組み、学校生活とは違った体験を楽しみました。



★ インターンシップ 将来に活かす貴重な体験

広く社会や企業の実情を知ること、仕事に対する興味や関心を高め、自らの適性や適職を考える契機となるインターンシップ(就業体験)。本学では、3年次生を対象に様々な企業や団体へのインターンシップを積極的に勧めています。

毎年夏に実施し、今年は15名の学生が参加しました。本番の就職活動の前に、「職に就く」との意識がより高まりました。



株式会社
アイ・オー・データ機器
にて



株式会社
相互移動通信にて

★ 教育実習 ～教員を目指して～

教員を目指す学生にとって、教育実習は大きな山場でもあります。学生たちは、実際に中学校や高校で実習に入る前に、予行演習を行い、担当教員の指導を受けます。お互いに生徒役にもなり、よりわかりやすい、より楽しい授業をめざし、全員力がはります。

模擬授業の成果が徐々に発揮できるようになります。

実習後の、話し合いやレポート作成により、今後の課題などが明確になり、さらなるステップアップを目指します。



★ 学生ボランティア大活躍

課外活動や学友会の自主的な活動として地域の行事にたくさんの学生が参加・協力しています。地域の人たちと交流を深め、生き生きと活躍する学生の姿が多く見られます。

7月から8月に行われた「ジャパンテント」と「金澤タぐれまつり」にボランティアやスタッフとして、また、「クリーンビーチいしかわ」にも毎年多数の学生が参加しています。珠洲、輪島、穴水、

片山津、山中、白峰などへもいろいろな任務を担って出かけています。

「私にとってのジャパンテント」



宮城 善亮(3年次)

今回、私は3度目のジャパンテントで学生ボランティア約180名のリーダーを務めました。ジャパンテントは、世界から「日本」を学びに来ている留学生を石川に集め、日本の文化

や、伝統、ふるさと感じて学んでもらうイベントです。

リーダーとして人員の割り振りや、学生の会議のほか様々な決め事など色々とはありましたが、特に、学生ボランティア同士の雰囲気作りが大変でした。しかし、ジャパンテントが無事終了し、「楽しかった」「来年も参加したい」という声を聞いた時は、何より嬉しかったです。



★ チャリティ キャンペーン に参加

8月26日(土)～27日(日)に行われた24時間テレビ「愛は地球を救う」のチャリティキャンペーンに星陵高校のインターアクト部の生徒と教員合わせて13名が参加し、イオン金沢示野ショッピングセンター前で、暑さの中、声をからして募金を呼び掛けました。

主催のテレビ金沢より星陵高校に感謝状が贈られました。

★ 鳴和中学生が職業体験

県教育委員会の中学生職業体験事業「わくワーク体験」で、7月24日(月)から28日(金)までの5日間、鳴和中学校の生徒10名が大学事務局、図書館等で就業体験をしました。

中学生からは、仕事の大変さや楽しさを知ることができました。この経験を将来に活かせるようがんばりたいと思うとの感想がありました。



★ オープンキャンパス 学生スタッフが活躍！

7月30日(日)、第一回目のオープンキャンパスを開催し、多数の受験生や保護者にご参加いただきました。事務局スタッフに加え、多くの学生がスタッフとして参加し、受付・施設案内などを担当しました。受験生にとっても学生から生の声を聞くことができるよい機会となりました。



[今後のオープンキャンパス日程]

回	開催日	模擬授業	担当者
第5回	10月15日(日) 10:00~14:15	「人間関係づくりの改善に向けて」	高 賢一 助教授
第6回	12月16日(土) 10:00~14:15	「一般入試対策講座」	馬場 治 教授



★ 学校見学会 約2,500名が参加

7月31日(月)と8月1日(火)の両日、学校見学会を行い、約2,500名の中学生が参加しました。中学生はグループごとに分かれ、CAMPUS MAPを頼りにクイズラリーをしながら、

校内を見学しました。先生方に加え、在校生も交通指導や案内、部活動のデモンストレーションや練習成果の発表など、高校のアピールにがんばりました。

星稜の

大学・短大・高校を

知ってもらおう

★ 短 キャンパス見学会 和やかな雰囲気で開催

6月から9月にかけて4回のキャンパス見学会を開催しました。

このうち第3回には71名の高校生が参加しました。大講義室にて学校紹介DVDの上映、大学概要説明、入試概要説明を行った後、在学生の誘導による施設見学ツアーで

校内を見学しました。その後5教室にわかれて模擬講義を受講しました。

模擬講義終了後は、在学生と一緒に昼食をとりながら懇談し、学生生活について、いろいろと質問していました。

なお、今年度最後のキャンパス見学会を、10月14日(土)



に開催します。12日(木)まで申込み受け付けをしています。



★高 星稜祭開催

9月4日(月)～5日(火)「Last Summer」をテーマに星稜祭が開催されました。今年度は「逆ミスコンテスト」が行われ、その美しい(?)変身ぶりに会場の目がくぎづけになりました。

注目の学園祭ライブは、高校生に人気の加藤ミリヤ。高校生が共感できる歌詞やメロディーで大いに盛り上がりました。各クラス・クラブに同窓会も加わり、バラエティー

に富んだ催しが行われ、盛りだくさんの内容となりました。夏の終わり、さまざまな思い出を残した祭りとなりました。



★短 体育祭開催

6月22日(木)に学友会とスポーツマネジメントコース主催による体育祭が開催されました。

1・2年合同のクラス対抗で行われ、逃走玉入れ、5人6腕、小綱奪い、仮装パン食いなど、趣向をこらした種目に挑みました。女性どうしの熱い戦いの末、スポーツマネジメントコースが優勝しました。



★高中 AED講習会開催

各学校にAED(自動体外式除細動器)が設置されたことに伴い、緊急事態に備えてAEDの使用を含めた救命行為ができるように、日本赤十字社石川県支部より講師を迎え、講習が行われました。今回は、7月、8月の計4日間で高校、中学の全教職員が受講しました。



今後学園の全教職員が対応できるよう随時講習会を開催していく予定です。

★中 合唱コンクール

7月15日(土)稲置記念館5F講堂にて「Song to You」のテーマのもと合唱コンクールを行いました。

1年生の初々しい歌声、上級生の素晴らしいハーモニーや表現力。特に自由曲は、それぞれのクラスの思いにふくれ、聴衆を引きつけました。毎日の練習の成果を存分に発揮した素晴らしいコンクールとなりました。

★高 身だしなみアップ週間実施

星稜高校では、年間を通して「さわやか挨拶運動週間」「遅刻ゼロ運動週間」「マナーアップ週間」「身だしなみアップ週間」を実施しています。学校全体で取り組み、定期的にくり返し行うことで、星稜高校生としての生活態度向上を目指しています。



★大 健康センターで食育指導

に合わせた食育指導や健康面でのアドバイス・心身の健康づくりの指導も行っています。

4月に全学生を対象に行った健康診断の結果を分析したところ、何らかの異常あり、もしくは異常あり予備軍の学生が約60%も占めました。このままの生活を継続すれば、将来必ずといっていいほど成人病群に入ることが予想されます。親元を離れての一人暮らしによる偏食(全体的に魚、野菜、果物の摂取率が低い)や不規則な生活が原因として考えられます。



健康センターでは、各学生

★プラネタリウム見学★

7月の七夕に合わせて、年長組がプラネタリウム見学に出かけました。

初めての体験にドキドキワクワク。真っ黒な夜空にワァ〜ッと浮かび上がった満天の星に、なんともいえない歓声を上げて「きれい!」「すごーい!」と大興奮でした。

いろいろな星を見つけて星座のお勉強をしたり、七夕のお話を聞いたり、よい経験ができました。



★星稜ワールドカップ★

2006年サッカーワールドカップに影響されて、年長組が各国に分かれてチームを作り、星稜ワールドカップを楽しんだり、年中組や年少組がみょうみまねでボールを蹴る姿が、今年の夏はたくさんみられました。

気分は立派なサッカー選手!

たのもしいな〜☺
とうれしく見守る先生達でした。



★泉丘高校との交流会★

8月25日「異世代交流活動を通して思いやりの心を育む」活動の一つとして、お隣の金沢泉丘高校の合唱部のお兄さん、お姉さんが、素敵な歌を聴かせてくれました。子ども達も先生も楽器のようなすばらしい声が織り成すハーモニーにうっとり…。いっしょにお絵かきもしてくれて、夏の1日にステキな思い出ができました。



★ちびっ子夏祭り★

今年は初めての試みとして盆おどりとフェスタをドッキングした「ちびっ子夏祭り」を開催しました。子どもたちはお家の人とぴょんぴょんかえるを作ったり、盆踊りで使ううちわを作ったりしました。リサイクルコーナーで品定めをするお母さん

の姿もあり、それぞれが思い思いの楽しみ方で過ごし、最後は園庭で盆踊り…。盛りだくさんの夏の夕ぐれは、「あ〜楽しかった!」と思ってもらえたかな?



★星稜幼稚園

★待ちに待ったプール開き★

6月に入ってすぐプール開きが行われました。待ってましたとばかり大きな歓声を上げて水の感触を思いっきり味わう子ども達。

浮き島やビート板、水でっぽう遊びや宝さがしゲームなど、水と仲良しになれるアイテム



をいろいろ工夫していくうちに子ども達はどんどん魚🐟のように。プール遊びを楽しんで心も体もたくましくなっています。



★親子レクリエーション★

6月の第3土曜日は「親子レクリエーション」の日。

トイレットペーパーの芯を使った工作やフープとりゲーム、アブラハムの子ダンスを楽しみました。親子で一生懸命考えたり、思いきり体を動かしたり大声で笑ったり、小さな感動も大きな感動も一緒に共有できた、すてきな一日になりました。



★星稜泉野幼稚園

★年長児アスレバルに参加★

6月14日、アスレバルいしかわ2006に参加しました。これは金沢市と金沢市近郊の私立幼稚園に通う年長児(41園1,764名)が集う体育祭です。最初のうちはドキドキ、ハラハラしていた子ども達も、他園の子といっしょに体操したり綱引きしたりするうちにすっかり心もほぐれ、たくましい笑顔がそこにありました。



★プール遊び★

6月後半、園には組み立て式のプールが突然現れます。びっくりした笑顔が見たくて子どもたちが帰った後、先生とバスの運転手さんが毎年2時間ばかりで組み立てるのです。翌日「わあ〜すごい! プールだ!」と駆け寄る子どもの姿に先生たちは心の中でガッツポーズ。

うれしくてもぐったり、泳いだり、プールの淵でおしゃべりを楽しんだり、それぞれですが、夏が終わる頃には「水なんて怖くない!」になることは間違いなしです。



★ サッカー部 「ジェフユナイテッド千葉」と対戦

7月4日(火)、岐阜県飛騨市にて合宿中の「ジェフユナイテッド千葉」と本学サッカー部が対戦しました。

この対戦は、ジェフユナイテッド千葉から本学サッカー部の小松崎監督(元Jリーガー)への打診により実現したものです。

イビツァ・オシム監督(現日本代表監督)が見守る中、J1



トップクラスの胸を借りて挑んだ試合は、2対6で敗れたものの、試合後はジェフユナイテッド千葉のコーチからの激励も受け、サッカー部員にとっては貴重な経験となりました。

★ 硬式野球部 「大学野球2006」にチーム紹介される

2006年度春季リーグ戦において、優勝まであと1歩の好成績をおさめた硬式野球部が、ベースボール・マガジン社より、今後注目するチームとして取材を受け、全国誌「大学野球(週間ベースボール)」(9月16日発行)に紹介されました。



金沢市早朝野球 稲置学園チームが優勝

9月6日(水)に行われた金沢市早朝野球選手権大会決勝において、ニシナガスポーツを3対2で下し、創部11年目にして念願の初優勝を果たすことができました。

稲置学園チームは、教職員を中心に卒業生、本学大学生で構成されています。



★ 陸上競技部 国内外で大活躍 平野博之選手 アジアジュニア大会銀メダル 世界ジュニア大会6位入賞

陸上競技部の平野博之さん(1年生)が、7月15日(土)～18日(火)中国マカオで開催されたアジアジュニア陸上競技選手権大会の男子10,000m競歩に出場し、見事銀メダルを獲得しました。また、8月19日(土)に、中国北京で開催された、世界ジュニア陸上競技選手権大会10,000m競歩においても6位入賞を果たしました。2年後の北京オリンピック出場に夢がふくらみます。



先頭 平野選手

齋藤将選手 学生日本一

9月10日(日)神奈川県平塚市で行われた全日本学生陸上競技チャンピオンシップ400mハードルで齋藤将さん(4年生)が51秒09のタイムで優勝しました。

また大図彰さん(3年生)も同種目で3位に入賞し、星稜大を400mハードルで全国にとどろかせました。

中小田洋介選手 全日本大学駅伝北信越予選で6位入賞

大学No.1を決定する全日本大学駅伝(名古屋の熱田神宮～三重の伊勢神宮)の北信越一校の予選会が9月23日(土・祝)に行われ中小田洋介さん(3年生)が、積極的な走りで6位入賞を果たしました。金沢星稜大学チームも4位入賞と健闘しました。

また、中小田さんは、6位入賞を受けて、10月9日(月・祝)に行われる第18回出雲全日本大学駅伝に北信越学連選抜チームとして出場します。応援よろしくお願いします。



ゼッケン21 中小田選手

★ 空手道部 全国大会出場

7月23日(日)、白山市美川スポーツセンターで行われた日本空手連合会第4回北信越地区空手道選手権大会において、成年男子組手試合で山崎城弘さん(3年次)が優勝しました。

また、成年女子組手試合では矢吹 綾さん(4年次)が3位に入賞し、それぞれ10月15日(日)に大阪で行われる全国大会への出場権を獲得しました。



★ 県新人戦(前期) テニス部、陸上部優勝

- 陸上部 男子 総合優勝
 男子は9種目で優勝
 (4×100mリレー、10mハードルともに大会新)
 女子 総合2位
 女子は5種目で優勝
- テニス部男子 団体優勝
 ダブルス 準優勝
- テニス部女子 団体優勝
 シングルス 優勝・準優勝
 ダブルス 優勝



★ 陸上部 日野勇輝選手 全国優勝

全国高校総体(インターハイ)陸上競技の110mハードルで、日野勇輝さん(2年)が優勝しました。

陸上部のインターハイ優勝者は3人目。

8月7日(月)、顧問の親谷教諭とともに理事長に優勝報告をし、「厳しい暑さだったが、自己新記録で優勝できてうれしい。秋の国体でも優勝を狙いたい」と笑顔いっぱいでした。

8月末には、韓国で開催される日本・中国・韓国3か国対抗陸上競技大会に、日本代表として出場しました。



星 稜 Information

星稜エクステンションセンターより 星稜ワンカル ～学生気分で学びませんか～

ワンコインで誰もが受講可能なカルチャー講座。気軽に楽しく、よりためになる情報の発信を目的に、今年5月からスタートし、様々なテーマで開催しています。

【今後の星稜ワンカル講座日程】(場所: 金沢星稜大学)

第4回	教育職員のためのファイリングシステム ～基本と実践～	10月7日(土)	13:00～15:00
講師: 社団法人日本経営協会・経営センター 主任研究員 石島 正勝氏			
第5回	株って何?	11月11日(土)	13:00～15:00
講師: 金沢星稜大学大学院研究科長 原 耕平氏 (元 大和総研調査部 経済調査部長)			

※講師・教室は都合により変更になる場合があります。

まだ間に合う! 後期開講講座

星稜エクステンションセンターは、在学生及び卒業生の各種資格取得、国家試験合格に寄与するための補助的教育事業を展開するとともに、様々な講座を開講することで、一般の方にも生涯学習の場を提供しています。後期からもWord、Excel、社会保険労務士、ファイリングデザイナーなど人気の講座を開講。詳しくはTEL 253-0867又は<http://www.seiryo-u.ac.jp/extension/index.html>をご覧ください。

星稜女子短期大学より

OPEN THE DOOR 2006 開催のお知らせ

この公開講座は、リカレント教育の一環ならびに教育研究成果の公開や教育施設・設備の活用などにより、地域社会により開かれた短大を目指すものとして開催しています。



【今後のOPEN THE DOOR 2006日程】

■教養講座「ヘーゲル『美学講義』を読む」	水谷千鶴子 教授
日時: 10/15(日) 13:00～17:00	場所: 長町研修館
■教養講座「トップアスリートの体力と気力」	大森 重宜 教授
日時: 10/13(金) 19:00～20:30	場所: 星稜女子短期大学
■教養講座「必ず役立つ旅行英会話」	辻 建一 講師
日時: 10/14(土) 13:30～15:30	場所: 星稜女子短期大学
■教養講座「Linuxを使ってみよう」	沢野 伸浩 助教授
日時: 10/17(火)～19(木) 18:00～20:00 定員: 5名	場所: 星稜女子短期大学
■教養講座「文章表現実習」	青木真知子 教授
日時: 10/28(土) 10:30～12:00	場所: 星稜女子短期大学

学園祭情報

模擬店やビンゴ大会など楽しいイベントが盛りだくさんです! 是非、ご家族そろってお越し下さい。

★ 金沢星稜大学「流星祭」

10月27日(金)～29日(日)

テーマ: “和(なごみ)” ライブ: Sun Set Swish

★ 星稜女子短期大学「星短祭」

10月28日(土)～29日(日)

テーマ: “革命” お笑いライブ: 猫ひろし

行事スケジュール(10~12月)

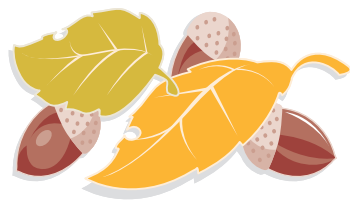
金沢星稜大学		
10月	15日(日)	第5回オープンキャンパス
	27日(金)~29日(日)	流星祭(休講)
11月	11日(土)	推薦入試
12月	16日(土)	第6回オープンキャンパス
	25日(月)	ゼミナール大会発表
	26日(火)	冬季休暇開始(~1/8)

星稜女子短期大学		
10月	5日(木)	Seminar Community
	14日(土)	第5回キャンパス見学会
	28日(土)~29日(日)	星短祭
11月	11日(土)	推薦入試
12月	25日(月)~26日(火)	補講日
	25日(月)	冬期休暇開始(~1/10)

星稜中学・高等学校		
10月	16日(月)~17日(火)	中間試験(中学)
	18日(水)~21日(土)	中間試験
	23日(月)	追試
	25日(水)~27日(金)	修学旅行(中学)
11月	9日(木)~12日(日)	新人大会(後期)
12月	8日(金)~12日(火)	期末試験
	13日(水)	追試
	18日(月)~19日(火)	体育大会
	19日(火)	保護者懇談会(3年)
	20日(水)	再試 保護者懇談会(~12/21)
	22日(金)	終業式 全国大会激励会
	23日(土)	補習B 補充授業A(~12/27)
	28日(木)~30日(土)	スキー教室

星稜幼稚園		
10月	2日(月)	願書受付
	3日(火)	年中遠足
	6日(金)	年少遠足
	13日(金)	年長遠足
11月	2日(木)	シルエット劇
	9日(木)	年中観劇
12月	7日(木)~8日(金)	表現あそびの会
	19日(火)	クリスマス会
	22日(金)	終業式

星稜泉野幼稚園		
10月	2日(月)	願書受付
	3日(火)	年中遠足
	4日(水)	年少遠足
	10日(火)	年中参観
	11日(水)	年長参観
	13日(金)	年少参観
11月	28日(火)~29日(水)	表現会
12月	16日(土)	同窓会
	21日(木)	ハローサンタの会
	22日(金)	終業式



—10月5日 学園創立記念日—

あとがき

今回の発行にあたり、月ヶ瀬の取材に同行しました。先代の理事長とは、ほとんど話をする機会がありませんでしたが、月ヶ瀬を訪問し、田中喜隆さんから話を聞くうちに、先代理事長と学園をより深く知ることができ、嬉しく思いました。

緑豊かでゆっくりとした時間の流れを感じさせてくれる月ヶ瀬。その中で、生き生きと月ヶ瀬と先代理事長について語ってくれた田中さんの表情が、とても印象的でした。何十年にもわたり、遠くから常に「星稜」を応援してくれていることに感謝したいと思います。

いよいよ平成18年度後半のスタートです。これからも皆様のご協力をお願いいたします。

法人本部法人課長 春本 裕雄

表紙:上/稲置記念館5Fホールの緞帳 下/月ヶ瀬文化センターの緞帳

学校法人稲置学園・設置各校

金沢星稜大学	星稜女子短期大学	星稜高等学校	星稜中学校	星稜幼稚園	星稜泉野幼稚園
石川県金沢市御所町丑10-1 ☎076-253-3924(代表) http://www.seiryu-u.ac.jp/	石川県金沢市御所町西1 ☎076-253-5900(代表) http://www.seiryu.ac.jp/	石川県金沢市小坂町南206 ☎076-252-2237(代表) http://www.seiryu-hs.jp/	石川県金沢市小坂町南206 ☎076-252-2237(代表) http://www.seiryo-jp/seiryo/	石川県金沢市御所町寅27 ☎076-252-5057(代表) http://kinder.seiryu.jp/seiryo/	石川県金沢市泉野町6-17-30 ☎076-244-5636(代表) http://kinder.seiryu.jp/izumino/

星稜サ・エ・ラ
サ・エ・ラ(cà et là)とはフランス語で「ここそこ」「あちこち」。幼稚園から大学まで色々な場面にスポットを当てるとい意味で、「どこでも星稜教育が息づいている」という表しです。

編集・発行/学校法人 稲置学園 2006年10月1日発行